

English Wind

小学校全教職員及び

中学校英語科担当教員配布

英語教育の



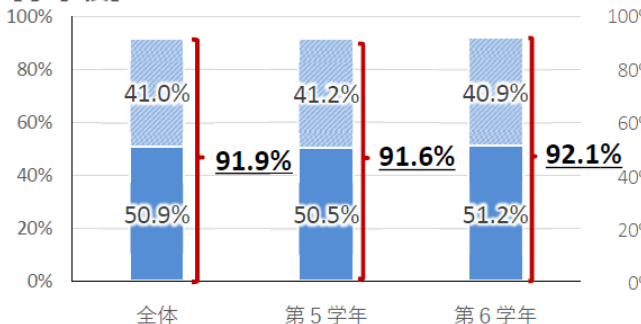
1 言語活動について ~令和4年度 英語教育実施状況調査結果より~

前号では、令和4年度英語教育実施状況調査の結果より、「生徒と教師の英語力」について取り上げ、「授業における生徒の言語活動の割合」、「英語教師の英語力や発話の割合」、「ICTの活用（発表や話すことにおけるやり取りをする活動）」が生徒の英語力の向上に影響を与えていることを紹介しました。今回は「言語活動の状況」の結果を基に、授業における言語活動の充実についてみなさんと確認していきたいと思ひます。

児童生徒の英語による言語活動の状況

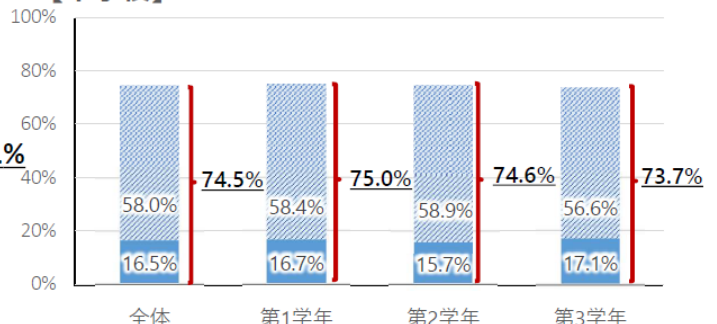
- 小学校において、9割以上の学校が半分以上の時間、言語活動を行っている。
- 中学校において、7割以上の学校が半分以上の時間、言語活動を行っている。
- 高等学校において、全体では5割以上の学校が半分以上の時間、言語活動を行っている。

【小学校】



※割合の合計は、小数点第2位切り上げ前の数字を合計して算出しているため、小数点切り上げ後の割合の和と一致しないことがある。

【中学校】

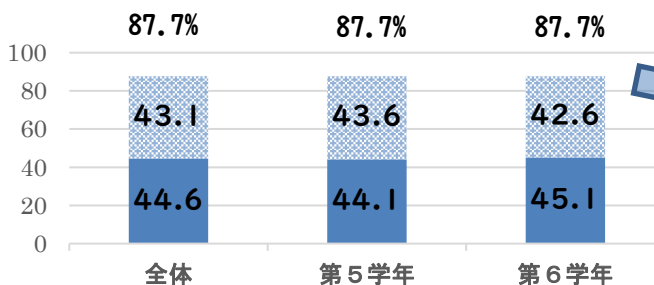


■ 授業中、75%以上の時間、言語活動を行っている
 ■ 授業中、50%以上75%未満の時間、言語活動を行っている

令和4年度「英語教育実施状況調査」概要より、小中学校に関する箇所を抜粋

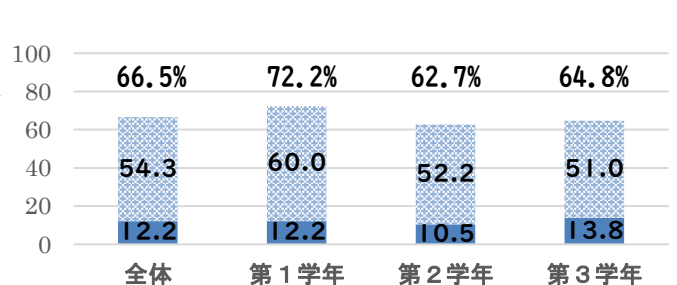
上記グラフは全国の結果です。福島県の結果は下記のとおりとなります。

小学校



■ 授業中、75%以上の時間、言語活動を行っている
 ■ 授業中、50%以上75%未満の時間、言語活動を行っている

中学校



■ 授業中、75%以上の時間、言語活動を行っている
 ■ 授業中、50%以上75%未満の時間、言語活動を行っている

この結果をみると、全国も本県も、小中学校間での言語活動の割合にギャップがあることがわかります。また、本県では中学校第2、3学年で全国の数値との開きが大きくなっています。児童生徒の英語力の向上に向けて、授業における言語活動の充実のために、どのようなことに取り組めばよいのでしょうか。

2 言語活動の充実に向けて

まずは「言語活動」がどういうものかについて、改めて確認してみましょう。義務教育課作成の「ふくしま・イングリッシュ・コンパス」では、次のようにまとめられています。

「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」～言語活動は、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。～言語活動は、言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別されている。～つまり、英語を用いず、日本語だけで情報を整理しながら考えなどを形成する活動は、外国語活動や外国語科においては言語活動とは言い難い。一方で、英語を用いているが、考えや気持ちを伝え合うという要素がない活動も言語活動であるとは言い難い。例えば、発音練習や歌、英語の文字を機械的に書く活動は、言語活動ではなく、練習である。練習は、言語活動を成立させるために重要であるが、練習だけで終わることのないように留意する必要がある。



言語活動

「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動



理解や練習するための指導

英語を用いず、日本語だけで情報を整理しながら考えなどを形成する活動
英語を用いているが、考えや気持ちを伝え合うという要素がない活動
発音練習や歌、英語の文字を機械的に書く活動 など

外国語活動、外国語科では、言語活動を通じた指導が求められています。児童生徒が思考を働かせ、考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実には「話したい（書きたい）」「どうやって話したら（書いたら）いいのかわかる」と考えたいような目的・場面・状況の設定が重要です。特に中学校では、「この言語材料を使わせたい」という気持ちが働いてしまいがちですが、伝え合う目的や必然性がある言語活動を設定することを心がけましょう。

言語活動設定の4つのポイント

- ① 伝え合う目的や必然性がある。
- ② 相手意識を持って取り組むことができる。
- ③ 実際に自分や相手の気持ちや考えを伝え合う「本物」のコミュニケーションである。
- ④ 伝え合うことの喜びや意義を見いだすことができる。

出典：直山木綿子「小学校外国語教育の指導と評価」文溪堂



前号より、フォントをUD（ユニバーサルデザイン）タイプに変更しました。印象が少し変わったでしょうか。全ての子どもたちの学びを保障するためには、ワークシートやテストなどのフォントにも注意する必要があります。「読むこと」はもちろんですが、小学校外国語の「書くこと」では「大文字、小文字を書く」、「音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を書き写す」活動となるため、そのお手本となるフォントはとても重要な役割を担います。教科書会社作成の独自 UD フォントが指導者用教科書に付属しているものもありますので、ぜひご活用ください。フォントを変えるだけで、子どもたちの学びを大きく変える可能性があります。学習者に寄り添った教材作成に取り組んでいきましょう。